

1. 単元名 「思いを紡ごう 未来への詩(うた)～名作家の生き方にふれて～」

文学を愉しむ子ども～子どもの自発性を促すために必要な国語的空間の設定～

2. 単元設定の理由

(1) 単元について

本単元では、3種類の詩を通して名作家の生き方に触れた後、その学びやこれまでの自分自身の学びの積み上げを生かして、自分たちで未来への思いを紡ぐ詩をつくる学習を行う。この「未来」への思いについては、未来そうぞう科での3年間の学びが基盤となる。さらには本単元で作成した詩に音楽科で音をつけて歌にし、最終的には卒業式で6年生に贈る未来に向けての歌として完成させていく。このように本単元は、国語科のみでなく、未来そうぞう科や音楽科などと教科横断的に学習を進め、学びを創り出していくことを視野に入れている。

本学級の児童はこれまでに、国語科において物語文を中心に、「世界で一番やかましい音」「注文の多い料理店」「大造じいさんとがん」など様々な作品の面白さや素晴らしさ、作者の工夫にふれてきた。高学年という時期は、作者に対して、読み手として対等な立場で、表現の工夫の効果について語ったり、書き手の思いに対する自分の考えを述べたりすることを体験できる段階である。だからこそ同じ文章を読んでも、一人ひとり捉え方が変わるような、子どもたち自身が「読み手」として自分の立場を確立しながら読み進めることのできる作品がそろっている。このような段階の5年生としては、それぞれの作品のおもしろさや素晴らしさ、その工夫に触れながら、作品を楽しむ経験が重要であると考え、ただ作品を読み終えた読後感だけではなく、物語の構成要素に注目したり、その繋がりから生み出される作者の工夫を見つけ出したり、作者の生き方や人となりから見出されているであろう作品の主題に注目したりすることに価値をおいて学習を進めてきた。

本単元においては、詩を題材として、短い言葉であっても、それぞれの「言葉」には作者の生き方や人生が反映されているところに注目して学習を進めていく。本学年では、未来そうぞう科A領域「LIFE」にて、4月より保護者にゲストティーチャーとして来てもらい、自分の人生について語っていただく経験をしている。それぞれの人の生き方について触れることで、自分自身の未来についても多角的・多面的に捉え、新たに意味や価値を見出すことができるという体験をしている。この学びを国語科の学習にも繋げ、授業で取り扱う作品について、ただ作品のよさに迫るのみではなく、その作品の背景となる作者の生き方や人生そのものにまで迫ることで、作者がなぜその言葉に意味や価値を見出して作品をつくったのか、改めて言葉と向き合い、生み出された言葉を多角的・多面的に捉え、一つひとつの言葉に新たな意味や価値を見出すことができるのではないかと考えた。そこで、子ども自らが作者の人生に触れられるような場を設定し、教室の中に作者の生き方に触れながら言葉と向き合える国語的空間を創り出すことで主体的実践力の育成を図る。同時に自分自身も言葉を生み出す「詩づくり」を設定することで、言葉を使って様々な物事に新たに意味や価値を見出したり、言葉自体にも新たに意味や価値を見出したりなど、国語科においてもそうぞうの実践力を発揮しながら、未来への思いを紡ぐ詩づくりを進めていくことができるようにする。

(2) 単元の目標

学習指導要領の資質・能力		そうぞうの実践力が発揮される姿
学びに向かう力・人間性等	これまでの学びや経験を生かし詩や言葉と自律的に向き合い続けることができる。	作家の生き方を通して、詩や言葉に対して多角的・多面的に捉え、新たな意味や価値を見出して未来への詩をつくることができる。
思考・判断・表現	・詩を読んで全体像を具体的に想像し、表現の効果を考え、人と共有することで、自分の考えを広げることができる。(読むこと) ・意図に応じて書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして伝えたいことを明確にして詩を書き、そのよさを見つけることができる。(書くこと)	
知識・技能	比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。	

(3) 活動構成の仮説

○教科横断的な単元設定や、作者の生き方にせまる国語的空間の設定により、主体的実践力を育むと共に、言葉に新たな意味や価値を見出してそうぞうの実践力を発揮することができる。

ただ国語科の授業として詩を分析したり創作したりのみではなく、未来そうぞう科と横断させたり、この言葉を紡ぎ出した背景となる作者の生き方にまで迫り、詩を分析したり、自らが詩の創作を行ったりすることで、国語科で育成すべき資質・能力のみではなく、主体的実践力も育成することができる。同時に、その学びから周りの物事や言葉自体に新たな意味や価値を見出す中でそうぞうの実践力を発揮することができ、教科の学びの中でも未来をそうぞうする子どもの育成をめざすことができる。

7. 年間を通した他教科・行事とのつながりを示した計画カリキュラム

月	5年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
計画カリキュラム	言葉の世界を愉しもう～詩から詩へ～ 2つの詩を使って新たな詩づくり（表現の工夫、新たな意味や価値）		「さすが〇〇先生！名作家の工夫にせまる」「世界で一番やかましい音」ベンジャミン・エルキン（物語の構成、オノマトペ）			「さすが〇〇先生！名作家の工夫にせまる」 「注文の多い料理店」宮沢賢治（物語の構成、表現の工夫、作者の生き方、主題）			「さすが〇〇先生！名作家の工夫にせまる」「大造じいさんとがん」椋鳩十（人物の相互関係、人物像、表現の効果）		「思いを紡ごう 未来への詩～名作家の生き方にふれて～」 （表現の工夫、自分の考えを広げる、言葉への新たな意味や価値）			
他教科			未来そうぞう科 A 領域「LIFE」（人それぞれの生き方考え方）			未来そうぞう科 C 領域「平野ダッシュ村」（稲刈り 農作体験）			音楽科 鑑賞「私と小鳥とすずと」（同じ言葉違う旋律 それぞれのよさを発見）		未来そうぞう科 詩づくり「未来への詩」今までの経験をもとに（言葉の意味付け）		音楽科 歌づくり「未来への詩」（同じ言葉違う旋律）	高学年としての卒業式（次年度への目標）
学校行事														

学習活動の流れと子どもたちの意識の流れ	指導上の留意点	言葉を意識する技能面の評価
<p>第一次 学習の見通し 他教科の学びから繋がり、必然性をもって学習計画を立てる。</p> <p>未来そうぞう科 で未来をテーマに書いた詩「未来への詩」を国語科の授業の導入で使う。</p> <p>1. 音楽での学びを生かして詩への関心について語り合い、学習の見通しを持ち、学習計画を立てる。①</p> <p>音楽で金子みすゞさんの「私と小鳥とすずと」あったかい気持ちになれて好きだな。 ぼくは相田みつをさんの詩が好きだな。前に詩を作る学習が楽しかったな。自分で詩をつくってみたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童が学習を進める上で、既習事項を生かしたり、学びの必然性をもって、主体的に学習活動を進めることができるよう、これまでに学習したことを振り返ったり、これまでの学習とのつながりを実感したりして、本単元の学習を進めていくことができるよう、既習事項を振り返る活動を設定する。 児童自身が、自分で計画を立てて、見通しを持って学習を進めることができるよう、単元の学習の基本を、自ら生み出した問いの解決とし、自ら問いを設定するよう働きかける。 	<p>第一次より</p> <p>□ 授業中の発言やノートへの記述</p> <p>主体的実践力</p> <p>○ これまでの学びや経験から詩や言葉と向き合い続けている。</p> <p>□・・・評価の方法 ○・・・満足できる姿 ▲・・・支援を要する姿 ◇・・・支援の方法</p>
<p>第二次 課題解決への活動 交流 ○1 作品目に出会い、名作家の生き方に触れる。宮沢賢治</p> <p>2. 詩「雨にも負けず」と出会い、作品のよさや工夫、名作家の思いについて考えたことを交流する。①</p> <p>注文の多い料理店の時に見たな。賢治の強い生き方が表れている詩だよ。私は好きだな。</p> <p>3. 名作家 宮沢賢治さんの生き方や人生について知り、感じたことや考えたことを交流する。①</p> <p>賢治は裕福な生活を捨てて農民と共に生きた。最後まで農民や人の幸せを追い続けた人だからこその言葉なんだ。</p> <p>○2 作品目に出会い、名作家の生き方に触れる。星野富弘</p> <p>4. 詩「生きているから」と出会い、作品のよさや工夫、名作家の思いについて考えたことを交流する。</p> <p>きれいなお花の絵だな。辛いということが生きているっていうのは何か辛いことがあったのかな。</p> <p>5. 名作家 星野さんの生き方や人生について知り、感じたことや考えたことを交流する。①</p> <p>まさか口で書いているなんて思いもしなかった。ただの悲しみや辛さではない。乗り越えてすごいな。</p> <p>○3 作品目に出会い、名作家の生き方に触れる。風見穂香</p> <p>6. 詩「ひとで いたい」と出会い、作品のよさや工夫、名作家の思いについて考えたことを交流する</p> <p>とても心に響く詩だな。そしてリズム感もいいな。つらい思いをした人だったのかな。</p> <p>7. 名作家 風見穂香さんの生き方や人生について知り、感じたことや考えたことを交流する。①</p> <p>まさかこれが歌になったとは。歌をつくっている人なんだ。詩に音楽をつけたら歌になるもんな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 出てきた詩のよさやおもしろさ、工夫について、表現の工夫に基づいて、児童と共に整理することで、作品の特徴やおもしろさ、その作家の特性や考え方などについて考え、話し合えるようにする。 詩を読む上で、正しい解釈を求めて正解を探すのではなく、本文を根拠にして、表現の工夫や挿絵などから自由に想像を広げて読むことができるよう、問いかけの仕方をこころがける。 作者の意図的なしなかけであることがイメージしやすくなるように、作者についての情報も子どもたちと共有できるようにする。 作家の生き方について詳しく知る前と知った後とで、言葉に対する捉え方が変わることを感じられるよう、先に詩を見て作品自体や作家自身のことについてイメージを広げた上で、作家の生き方に触れる時間を迎えられるように声かけをしていく。 作家の生き方について触れる授業をした後には、教室の空間でその学びを感じられるように教室の国語的空間を作成しておく。また、自分から進んでいろいろな作品に触れることができるよう、関連する図書を用意し、設置しておく。 	<p>第二次より</p> <p>知識・技能 2. 4. 6</p> <p>○ それぞれの詩の表現の工夫に気付いている。</p> <p>▲ 表現の工夫に気付くことができない。</p> <p>◇ これまで学んできた表現の工夫を振り返る。これまでに学んできた詩や物語の表現の工夫の効果振り返る。</p> <p>思考・判断・表現(読むこと) 2. 4. 6</p> <p>○ 詩の全体像を具体的に想像し、表現の工夫や効果に気付き、交流する中で考えを広げている。</p> <p>▲ 具体的に想像できない。表現の効果がわからない。</p> <p>◇ 挿絵を描いてみて想像を広げてみる。</p> <p>そうぞうの実践力 3. 5. 7</p> <p>○ 作家の生き方を通して、詩や言葉に対して多角的・多面的に捉え、新たな意味や価値を見出している。</p> <p>▲ 作家の生き方から感じるものがない。生き方と詩や言葉を繋げて捉えられない。</p> <p>◇ 自分自身で作家について調べる時間を取ったり、友達同士で議論する時間を取ったりする。</p>
<p>第三次 学びの発信 未来への詩の創作 これまでの学びを生かして詩をつくる。</p> <p>8. これまでの学びを生かし、自分自身も作家になって詩を創作する。「未来への詩」①（本時）</p> <p>未来という何が浮かぶかな。宮沢賢治さんのように人生を入れた内容で書いてみたい。 未来といっても、これまでの作家さんは生き方が一言で集約されていたな。自分にとっての未来はなんだろう</p> <p>9. みんながつくった「未来への詩」を交流し、それぞれのよさを交流する。使いたい部分を選ぶ。②</p> <p>あの詩の3連がとってもいいな。リズム感があるし、まさに自分たちの取り組みを伝えている感じがする。 「協力」という言葉、たくさんの人に入っているからぜひ使って歌にしたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習を始める前に捉えていた「未来」という言葉と、学習を進めていく中で見えてきた「未来」の言葉の捉え方について、変化を感じられるよう、言葉に対する新たな意味や価値を見出すことを大切にして進めていくようにする。 最終的に一人ひとりが紡ぎ出した「未来」という言葉への捉えを厳選していき、全体で一つの詩をつくる流れにつながるように声掛けをしていく。 	<p>思考・判断・表現(書くこと)</p> <p>○ 意図に応じて書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして伝えたいことを明確にし、詩を書いている。</p> <p>▲ 集めた言葉を分類できない。整理できない。</p> <p>◇ イメージマップや未来ノートで考えを整理する。</p> <p>○ 書いた詩のよさについて見つけることができる。</p> <p>▲ 自分が使いたいと思う言葉やよさを見出せない。</p> <p>◇ 既習事項の句会のような形で価値づけできる場を設定する</p>